

氏名 (A子)

実施日 : 中 1 11月

参加者名 : 担任、保護者 (母親)、適応教室指導員

○担任、□保護者 (母親)、適応教室指導員、 3者

	学習面	心理・社会面 (人間関係、性格・特徴)	進路面 (得意なこと、趣味、将来の夢、進路希望)	健康面 言語・運動面	家庭生活	
現在の状況	いいところ □勉強するときは、漢字の練習をする。	いいところ 適応教室の活動に、まじめに取り組む。 ○あいさつができる。	いいところ □TVゲームが好き。 □電子メールができる。	いいところ □バドミントンが好き。	いいところ □姉と仲がいい。	
	気になるところ ○□学習に対して自信がない。 □勉強することに対して拒否反応を示す。	気になるところ ○人と接するときの緊張感が高い。 初めてする活動はしたがらない。 ○不登校になる以前は一人の友達といつも一緒だった。また、他の友達とうまく話せなかった。	気になるところ ○□学校の話にはのってこない。	気になるところ 肥満傾向。 □天候に関係なく長袖の上着を着ている。 昼食の量が少ない。	気になるところ □父親とは話をしようとししない。	
今まで行った、あるいは今行っている支援とその結果	□短時間でもいいから家庭学習をするようにしていたが、ほとんどしなかった。				□適応教室までの送り迎えをする。	
考慮する事項						
支援方針	この時点での目標と方針	・自分に自信を持つことができるようになる ・学校との継続的なつながりを持つことができるようになる ・支援者は、A子の気持ちによりそう姿勢を持つ				
支援案	支援として何を行うか	○ 学習することを直接的に促すのは控え、A子との関係づくりに努める。 学習をしたときは、その成果をほめる。 活動での様子や実習の作品の写真を掲示する。	適応教室での活動や家庭での様子で、そのときのよかったところやできたことの情報交換を密にする。また、それらのことを具体的に言葉でA子に伝え、取組や作品等を認めほめる。 1対1で会話するときの留意点(リラックスしている場で、本人が話をするのをゆったりと待つこと、本人の気持ちを代弁しながら話すこと、本人の言うことを尊重すること)。 否定的なメッセージを与えない。	心の動きを観察し、興味があること・得意なことなどをきっかけに声かけを行う。 活動での様子や実習の作品の写真を掲示する。	情報交換を密にする。(特に、保護者と適応教室) 新しいことに挑戦するときは、事前の説明や練習を行う。	□家族で外出する機会をつくる。
	誰が行うか	担任、保護者、適応教室	担任、保護者、適応教室	担任、保護者、適応教室	担任、保護者、適応教室	保護者
	いつからいつまで行うか	当面	当面	当面	当面	当面
	支援のために必要な連携	3者	3者	3者	3者	3者